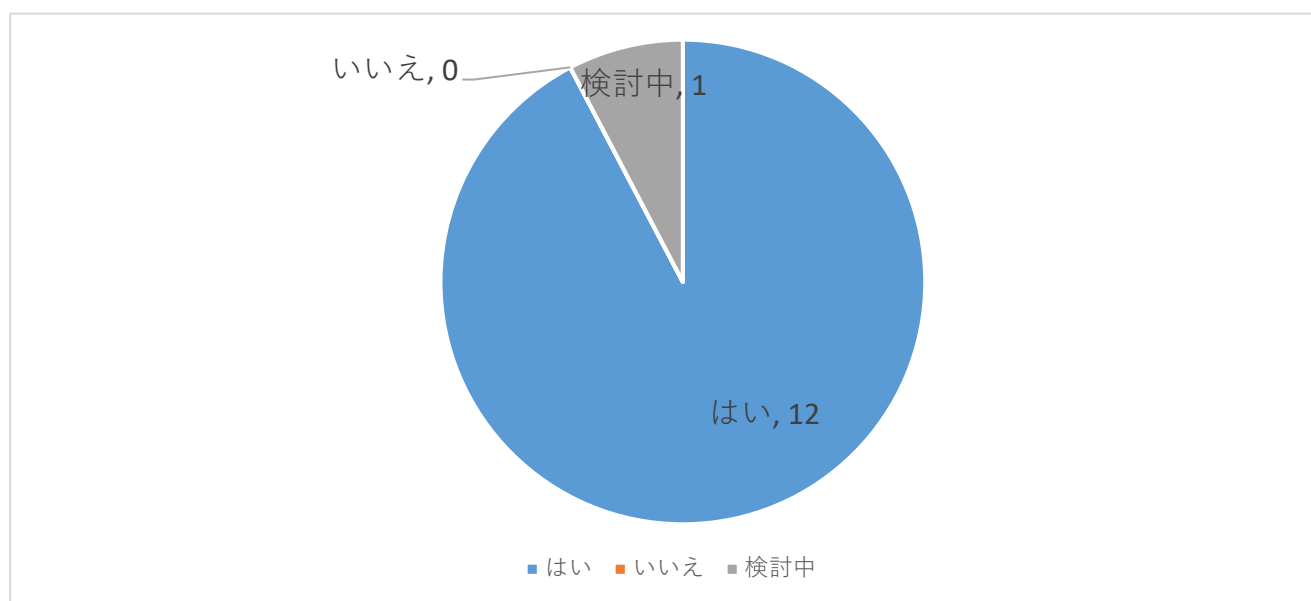


ささえ愛サロン事業の補助期間満了に伴う 居場所に関するアンケート調査結果

(対象=13団体)

① 補助金が無くなる来年度以降も居場所の運営は継続するか



② 継続するにあたって、資金確保の方法や運営方法の工夫について

- ・ 高齢の方だけにとどまらず、大学生高校生中学生の勉強場所を併設。多世代が繋がりを感じられる空間をつくっていく。
- ・ 利用料金を設定し事業継続につなげていく。
- ・ 今までは資金確保は参加者がお気持ちで入れていた（参加費は決めていない）。これからもその継続で大丈夫だと思う。今後は月に1度くらい買い物や外食に行きたい。
- ・ 世話人の後継者を見つけたい。
- ・ 参加者の募金により運営されており、お金をかけない、お金のかからない活動を目指している。
- ・ 資金確保については、会費を当てる（4月に会員を募る）
- ・ 運営方法については、会員の中から運営委員を選出し、企画運営する。月2回居場所（サロン）を開催する。
- ・ 資金については赤い羽根共同募金「おおたわらを良くするしくみ」応援助成を申請中であり、申請が通れば継続する。また、申請が駄目な場合は会費千円程度とり実施（参加は自治会内とする。）
- ・ 市社会福祉協議会の「おおたわらを良くするしくみ応援助成事業」の助成を受けて、及び、自治会の助成を受けて継続する予定。
- ・ 運営方法は従来通りとする予定。
- ・ 資金源：回避の徴収、資源ごみ回収
- ・ 会費 1人100円/回
- ・ 会員の作品の販売古着古布等の販売
- ・ 必要に応じて個人から徴収
- ・ 会費等を徴収する予定はない。
- ・ 高齢者ばかりでなく、多世代間交流の場、子供たちの居場所ともしたい。
- ・ 運営活動内容等アンケート調査をし、活動内容などにより、曜日別活動も考えていきたい。
- ・ 費用が掛からないことをする。
- ・ 材料費等がかかった場合は各自で払う。
- ・ NPO法人の事業として経費計上する。
- ・ ペットボトル、古紙、アルミ缶の回収による収益。
- ・ 参加費の徴収
- ・ 今までも法人がかかわっていたので、今後は法人として継続運営していきたいと考えている。

③ 補助事業終了後も取材や調査に協力してくれるか

